

## 質問12 会員一人ひとりに寄り添うことができているかについて

(該当箇所:p.115、第2号議案、関連項目:p.82、組織対策委員会3.1)、p.81、会員福利厚生委員会、p.83、子ども子育て施策委員会)

「常に一人ひとりに寄り添い、必要な人に、必要な時と場で作業療法を提供し続けます。」ができるのですか？

協会のこれまでの姿勢では、退会者（未入金による除籍者？）に対する対応が厳しすぎるのではないかと考える。再入会しても元の協会番号を使えず、それまでの習得した教育履歴を抹消。罰しか与えない姿勢に作業療法士が運営する組織とは思えない役所的な管理姿勢を感じる。再入会してもリハビリのチャンスを与えない組織である。

女性が6割という組織で除籍になる方の中には、出産で産休育休中に職場に届いた請求に対応できない場合も多数あるのではと思う。実際、私の妻もそうであった。一緒に研修を受け真面目にポイントをためていたが、再入会後は、一切その行動は生まれていない。作業療法士の子育てに、十分な配慮・サポート・心遣いができていない。そのような組織で子ども子育て施策委員会が何ができるのかとってしまう。ルール・決まり事は、組織運営には必要であるが、恐らく作業療法士という仕事が好きで協会に入って研修を受け頑張っていたのに二度とチャンスを与えない。そのような経験をしていくと作業療法士協会の厳しさしか感じないのではないか。組織対策委員会では、退会者にも入会促進という文言が入っているが、そうであれば、再入会者の待遇を改善しリハビリの機会を提供し協会のファンにしてほしい。2度目はダメですよ。でいいと思う。そうすることで、除籍で退会した人も再入会をしようと思えると思う。

しかし、会費の納入方法をいまだに振り込み行かせる行動を起こさせようとするのが、作業療法士の組織と思えない。そのハードルをもっと早くに下げるべきである。コンビニがあるとはいえ、私でも面倒だと思ってしまう。引き落としやカード決済など導入していれば、未納者はもっと減るはずである。協会員＝士会員になればカード決済ができると言われているが、対策が遅すぎるのではないと思う。

今からでも、再入会者の元の協会番号への復帰や研修履歴の統合を行うべきである。そのように会員の一人ひとりに寄り添うことも考えてほしい。

## 回答

貴重なご指摘とご提案をいただき、ありがとうございます。

引用していただいた「常に一人ひとりに寄り添い…」という箇所は、今回ご提案した「基本理念」を Vision、Value、Mission という階層性において検討した際に、Mission（協会の使命）の一部を構成する重要な要素として考えたものです。これは「基本理念」全体に当てはまることですが、協会はここに表現されたことをすでに全て端的に実現できているとは到底言うことができません。作業療法の現場において然り、協会の活動において然りです。しかし作業療法士の団体であるからには、会員一人ひとりが我が事としてこういうことを「常に自覚しまた立ち返るべき価値観、社会的使命、基本姿勢」として持ち、それを目指して自らを鼓舞し、自らを刷新しながら、会員同士で共に歩んでいかなければならないという思いがあり、だからこそ「理念」として、私たちの指針としてこれを策定するに至りました。

今回ご指摘のあった再入会の決まり事、会費の納入方法等に対するご意見は、まさにそれによって私たちが一歩でも前に歩みを進めることができるための、一つの原動力になるものと捉えてお

ります。もちろん6万人を超える会員を抱え、その多くの方が規定を遵守してくださっている中では公平性という観点を外すわけにはいきませんが、改善すべき点は改善し、新たに導入できることは導入することに鋭意努めてまいります。これは私たちが自分にとっての利便性を高めるためというよりは、それを通して、「国民の健康と福祉の向上に資する」ことを目的とした作業療法士の団体として私たちが結束し、研鑽・向上していくことに集中できるようになるためです。今後、もさまざまにご提案やご鞭撻を頂きながら、協会運営を行ってまいりますので、ぜひ共に歩みを進めてまいりましょう。